

令和6年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

(令和5年度対象)

令和6年11月

三郷市教育委員会

三教総発第175号
令和6年12月2日

三郷市議会議長 鈴木深太郎様

三郷市教育委員会教育長 大塚正樹



令和6年度教育委員会の事務に関する点検評価の結果について（報告）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行ったので、その結果を次のとおり報告します。

目 次

I	はじめに	1
II	点検評価の基本方針及び実施方法	1
III	令和5年度三郷市教育行政の基本方針	2
IV	令和5年度事務事業一覧（教育委員会所管分94事業）	3
V	令和5年度事務事業評価表（点検評価対象16事業）	7
VI	事務事業評価に関する懇話会委員のコメント	40
VII	教育委員会事務の点検評価に関する懇話会委員名簿	44
VIII	まとめ	45

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

また、点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、三郷市教育委員会が行った点検評価の結果をまとめたものです。

II 点検評価の基本方針及び実施方法

1 目的

同法の規定に基づき、三郷市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することとしています。

この点検評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検評価の対象及び実施方法

(1) 対象年度

令和5年度とする。

(2) 対象及び実施方法

本市では、教育委員会の事務を含め市全体として事務事業評価（通常評価及び実績把握）を実施しており、教育委員会所管分は通常評価53事業、実績把握41事業の計94事業となっています。そのうち三郷市教育行政の重点施策に照らし合わせ、主要な16事業について、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用し、点検評価を行いました。

Ⅲ 令和5年度 三郷市教育行政の基本方針

三郷市教育委員会では、三郷市教育施策大綱に基づき、次のとおり方針を定め、施策を推進していきます。

◇三郷の教育「四つの礎」として「授業改善」、「日本一の読書のまち三郷の推進」、「家庭教育の充実」、「夢への挑戦」を柱とした教育のより一層の充実を図ります。

◇子どもや若者が健やかに学び、児童生徒一人ひとりの学力を確実に伸ばすとともに、夢を持ち、社会の一員として自立した人間を育てます。

◇「第2次日本一の読書のまち三郷推進計画」に基づき、すべての市民が本とふれあえる機会を増やすとともに、読書を通じた交流を推進します。

◇ギリシャ共和国やオリンピック・パラアスリートとの交流を通じて、夢を育む教育を推進するとともに、グローバル社会と情報社会に適応できる人材を育成します。

令和5年度 教育行政重点施策

- | | |
|-------------|-----------------|
| ○児童生徒の学力向上 | ○心の教育の推進 |
| ○教職員の資質向上 | ○教育環境の整備促進 |
| ○次世代リーダーの育成 | ○日本一の読書のまち三郷の推進 |
| ○読書環境の整備と充実 | ○学び（市民大学）の充実 |
| ○郷土資料館展示の充実 | ○人権啓発・教育の充実 |

Ⅳ 令和５年度 事務事業一覧（教育委員会所管分94事業）

番号	評価対象	事務事業名	担当課名	評価区分
1	○	公営児童クラブ運営事業	教育総務課	通常評価
2	○	入学準備金貸付事業	教育総務課	通常評価
3		小学校校舎改修事業	教育総務課	通常評価
4	○	中学校校舎改修事業	教育総務課	通常評価
5		保育所併設型民営児童クラブ事業	教育総務課	通常評価
6		小・中学校適正規模適正配置事業	教育総務課	通常評価
7	○	学校選択制事務	学務課	通常評価
8	○	小・中学校学校司書配置事業	学務課	通常評価
9	○	学校給食センター整備等事業	学務課	通常評価
10		学校人権教育推進事業	指導課	通常評価
11	○	教育相談室運営事業	指導課	通常評価
12		教育研究推進事業	指導課	通常評価
13		関係機関への支援事業	指導課	通常評価
14		学校教職員研究会等支援事業	指導課	通常評価
15		進路指導・キャリア教育事業	指導課	通常評価
16		学校評議員委嘱事業	指導課	通常評価
17		特色ある学校づくり推進事業	指導課	通常評価
18		おもしろ遊学館運営事業	指導課	通常評価
19	○	学力向上推進事業	指導課	通常評価
20		特別支援教育	指導課	通常評価
21		いじめ不登校対策事業	指導課	通常評価
22		学校応援団推進事業	指導課	通常評価
23	○	読書のまち三郷づくり推進事業	指導課	通常評価
24		小中学校夢応援プロジェクト事業	指導課	通常評価
25		幼児教室運営管理・補助事業	生涯学習課	通常評価
26		人権教育推進事業	生涯学習課	通常評価
27		公民館運営管理事業	生涯学習課	通常評価
28	○	郷土資料館運営管理事業	生涯学習課	通常評価
29	○	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課	通常評価
30	○	市民大学事業	生涯学習課	通常評価
31		市史編さん事業	生涯学習課	通常評価
32		生涯学習推進事業	生涯学習課	通常評価
33		放送大学運営事業	生涯学習課	通常評価
34		社会教育推進事業	生涯学習課	通常評価
35	○	青少年育成事業	青少年課	通常評価
36		二十歳のつどい開催事業	青少年課	通常評価
37		青少年の非行・被害防止全国強調月間啓発事業	青少年課	通常評価
38		子供・若者育成支援強調月間啓発事業	青少年課	通常評価
39		青少年団体委託事業	青少年課	通常評価
40		子ども会育成連絡協議会支援事業	青少年課	通常評価

番号	評価対象	事務事業名	担当課名	評価区分
41		ボーイスカウト三郷市連絡協議会支援事業	青少年課	通常評価
42		青少年育成推進委員協議会支援事業	青少年課	通常評価
43		青少年育成市民会議支援事業	青少年課	通常評価
44		中学校区地域青少年育成会支援事業	青少年課	通常評価
45	○	親の学習推進事業	青少年課	通常評価
46		青少年交流「集まれみさとの子」事業	青少年課	通常評価
47	○	図書館運営事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
48		図書館子ども読書活動推進事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
49		図書館図書購入事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
50		図書館資料ＩＣタグ導入事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
51	○	「日本一の読書のまち」推進事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
52		日本一の読書のまち三郷電子図書館運営事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
53		「日本一の読書のまち三郷」推進団体等活動サポート事業	日本一の読書のまち推進課	通常評価
			通常評価分合計：53事業	

番号	評価対象	事務事業名	担当課名	評価区分
54		小学校運営管理事業	教育総務課	実績把握
55		中学校運営管理事業	教育総務課	実績把握
56		小学校除染埋設土維持管理事業	教育総務課	実績把握
57		中学校除染埋設土維持管理事業	教育総務課	実績把握
58		私立幼稚園運営費等補助事業	教育総務課	実績把握
59		児童・生徒交通遺児奨学金	学務課	実績把握
60		教職員業務補助事業	学務課	実績把握
61		児童・生徒派遣費支援事業	学務課	実績把握
62		選手送迎等委託事業	学務課	実績把握
63		小学校児童就学援助費支給事業	学務課	実績把握
64		中学校生徒就学援助費支給事業	学務課	実績把握
65		環境衛生検査事業	学務課	実績把握
66		就学援助費（医療費）支給事業	学務課	実績把握
67		児童・生徒健康管理事業	学務課	実績把握
68		日本スポーツ振興センター申請・給付事業	学務課	実績把握
69		教職員健康管理事業	学務課	実績把握
70		学校医等の委嘱事業	学務課	実績把握
71		学校保健支援事業	学務課	実績把握
72		A E D 借上事業	学務課	実績把握
73		保健係事務	学務課	実績把握
74		学校給食室事務	学務課	実績把握
75		岩野木学校給食センター運営管理事業	学務課	実績把握
76		鷹野学校給食センター運営管理事業	学務課	実績把握
77		特別支援教育就学奨励費支給事業	学務課	実績把握
78		教職員人事評価事務	学務課	実績把握
79		教職員人事事務	学務課	実績把握
80		中学校夜間学級等事業	学務課	実績把握
81		コミュニティ・スクール運営事業	学務課	実績把握
82		小中陸上競技親善大会会場整備	指導課	実績把握
83		小学校教材用品整備事業	指導課	実績把握
84		小学校教育用パソコン整備事業	指導課	実績把握
85		中学校教材用品整備事業	指導課	実績把握
86		中学校教育用パソコン整備事業	指導課	実績把握
87		教科指導推進活動事業	指導課	実績把握
88		文化財調査・保護事業	生涯学習課	実績把握
89		ライブラリー教材・教具の管理事業	生涯学習課	実績把握

番号	評価対象	事務事業名	担当課名	評価区分
90		青少年問題協議会運営事業	青少年課	実績把握
91		青少年ホーム管理事業	青少年課	実績把握
92		勤労者体育館管理事業	青少年課	実績把握
93		図書館施設管理業務	日本一の読書のまち推進課	実績把握
94		図書館及び視聴覚ライブラリー協議会運営事業	日本一の読書のまち推進課	実績把握
			実績把握分合計：41事業	

V 令和5年度事務事業評価表
(点検評価対象16事業)

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等						
事務事業コード		1000280				
事業名		公営児童クラブ運営事業				
位置付け 総合計画の	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり			担当部名	学校教育部
	施策の柱	2-1 子どもを育てやすい環境をつくる			担当課名	教育総務課
	施策	2-1-2 子育てと仕事の両立支援			所属長名	
					担当者名	
				開始年度	平成9年度	
				終了年度		

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	保護者が就労等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に、授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を提供する。
何の為にやるのか (目的)	家庭が留守になっている児童に、授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を提供し、その健全な育成を図ることを目的とする。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	小学校児童のうち、保護者の就労等により家庭が留守になっている児童。
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	児童クラブにて、保護者に代わって適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全育成を図る。
	課題 対象児童が全学年となっていることから職員の確保、施設の拡充等が必要になる。
	対応 職員の確保については、職員募集を継続的に行う。施設の拡充に関しては、小学校と調整を行い教室の確保を目指す。
目的を達成することで、市がどうなるか (事業の意義)	家庭が留守になっている児童に、授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を提供し、その健全な育成を図ることができる。それを達成することにより子ども・子育て支援の充実に繋がる。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	40,837,143	180,422,108			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	6,913,000	56,369,950			
県支出金	6,931,000	40,476,150			
交付金等の概要	子ども・子育て支援交付金(放課後児童健全育成事業分)・放課後児童健全育成事業費補助金				
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☒ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☐ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	4	パートタイム	0	6,652,800	
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	99				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	410				1,025,000	
定型・非定型業務	非定型				合計	
業務の難易度	専門				7,677,800	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	児童クラブ入室申請者数(公設公営)				目標値 780
単位	人				指標数値のめざす方向 増加
		実績値		達成率	
令和3年度		1138	人	145.9 %	
令和4年度		1266	人	162.3 %	
令和5年度		1341	人	171.9 %	
令和6年度			人	%	
令和7年度			人	%	
指標値の算定・ 把握方法	19クラブ総定員数780人				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	児童クラブ入室決定者数(公設公営)				目標値 780
単位	人				指標数値のめざす方向 増加
		実績値		達成率	
令和3年度		1081	人	138.6 %	
令和4年度		1191	人	152.7 %	
令和5年度		1279	人	164 %	
令和6年度			人	%	
令和7年度			人	%	
指標値の算定・ 把握方法	19クラブ総定員数780人				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	保護者が就労等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に、授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を提供し、その健全な育成を図ることができた。		
改善策	入室児童数が増加している小学校においては、施設の建設を行う等の対応により、引き続き、適切な遊び及び生活の場の提供に努める。	評価ランク (A~F)	A
		PDCA	十分機能している
実績報告	市内19小学校内の児童クラブ室において、放課後及び春、夏、冬休み、土曜日等の平均255日、家庭に代わる生活の場を確保し、放課後ケアワーカーによる適切な遊びや指導を行うことにより、児童の健全育成を行った(年度当初の入室決定者数は1,279名、年間入室者数は延べ14,707名、待機児童はなし)。		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等						
事務事業コード		1000546				
事業名		入学準備金貸付事業				
位置付け 総合計画の	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり		担当部名	学校教育部	
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる		担当課名	教育総務課	
				所属長名		
	施策	2-2-1 質の高い教育及び環境の充実		担当者名		
				開始年度	昭和48年度	
				終了年度		

事務事業の目的、概要等		
何をする事業か (概要)	高等学校又はその上級の学校に進学を希望する者の保護者のうち、入学準備金の調達が困難な者に対して入学準備金の貸付を行うことで進学の後押しをすることを目的とする。	
何の為にやるのか (目的)	等しく教育を受ける機会を助長する及び人材育成の観点から入学準備金の調達に困難がある保護者に経済的支援を行う。	
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	高等学校又はその上級の学校に進学を希望する者の保護者で、入学準備金の調達が困難な者	
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	経済的理由により入学準備金の調達に困難がある保護者に対し貸付を行い援助する。	
	課題	貸付件数は横ばいの状態である。
	対応	利用促進のためのPR等に努める。
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	能力や意欲があるにも関わらず、経済的理由により進学を断念することの無いよう支援することで、次世代の市民が充実した豊かな生活を送ることに繋がり、市の継続的な発展に還元されることが期待できる。	

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	2,500,000	900,000			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	2	パートタイム	0	672,000	
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	20				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0	
定型・非定型業務	定型業務				合計	
業務の難易度	普通				672,000	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	入学準備金貸付申請者数				目標値 17
単位	人/年				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		10	人/年	56 %	
令和4年度		10	人/年	56 %	
令和5年度		3	人/年	18 %	
令和6年度			人/年	%	
令和7年度			人/年	%	
指標値の算定・ 把握方法	当該年度貸付申請者数				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	入学準備金貸付決定者数				目標値 17
単位	人/年				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		10	人/年	56 %	
令和4年度		10	人/年	56 %	
令和5年度		3	人/年	18 %	
令和6年度			人/年	%	
令和7年度			人/年	%	
指標値の算定・ 把握方法	入学準備金貸付決定者数				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	等しく教育を受ける機会を助長することは、本市の将来を支える子ども達を育成するためには必要不可欠な要素であるため、引き続き事業を実施する。		
改善策	市内の中学3年生の保護者全員に制度概要チラシを配布し、市内の3高校にはポスターの掲示を依頼することで、積極的な制度内容の周知に努めている。令和5年度はチラシやポスターをきっかけとした制度のお問い合わせは非常に増加したが、全体の申請者数は減少した。 入学準備金貸付金を必要とする保護者が制度を利用できるよう、引き続き制度の周知を徹底する。	評価ランク (A~F)	B
		PDCA	概ね機能している
実績報告	高等学校・高等専門学校(工業・商船等)・専修学校(高等課程で大学受験資格の得られる学校のみ)・短期大学・大学に入学する者の保護者で、入学準備金の調達が困難な者に対して、等しく教育を受ける機会を助長するため、「三郷市入学準備金貸付条例」に基づき貸付を行った。 貸付者 3名【高校(公立)0人、高校(私立)2人、大学1人】 貸付額 900,000円 内訳 公立高校(貸付額150,000円)×0人 = 0円 私立高校(貸付額250,000円)×2人 = 500,000円 大学 (貸付額400,000円)×1人 = 400,000円		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1001267		
事業名		中学校校舎改修事業		
総合計画の位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	学校教育部
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる	担当課名	教育総務課
			所属長名	
	施策	2-2-1 質の高い教育及び環境の充実	担当者名	
			開始年度	平成29年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等		
何をする事業か (概要)	学校施設は、昭和40年代から50年代にかけての児童生徒急増期に整備されているものが多いため、建築されてから年数も経ち、老朽化が顕著にあらわれている。校舎の改修が必要な箇所を調査し、設計、工事を行っていく。	
何の為にやるのか (目的)	学校施設は、子供たちの学習・生活の場であり、教育活動を行うための基本的なものであるため、計画的に改修をしていくことで、施設環境の改善を図り、生徒が安全安心に学校生活を送れることを目的とする。	
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	中学校校舎	
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	学校教育施設個別計画に基づき、生徒にとってよりよい教育環境整備を図る。	
	課題	学校教育施設の経年劣化が進んでおり、今後10年間で築40年以上を迎える施設が増加することから、その対応と財政調整が課題となる。
	対応	計画的な改修を実施する。
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	生徒が安全で快適な校舎で教育を受けることができる。	

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	489,438,400	420,585,000			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	30,720,000	13,581,000			
県支出金	0	0			
交付金等の概要	学校施設環境改善交付金				
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☐ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	2	パートタイム	0	1,176,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	35				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	68				170,000
定型・非定型業務	非定型業務				合計
業務の難易度	専門				1,346,000

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	改修工事設計の実施				目標値 4
単位	校				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		2	校	50 %	令和3年度計画値2校
令和4年度		1	校	25 %	令和4年度計画値1校
令和5年度		1	校	25 %	令和5年度計画値1校
令和6年度			校	%	
令和7年度			校	%	
指標値の算定・把握方法	改修工事設計実施件数				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	改修工事の実施済学校数				目標値 5
単位	校				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		2	校	40 %	令和3年度計画値2校
令和4年度		1	校	20 %	令和4年度計画値1校
令和5年度		1	校	20 %	令和5年度計画値1校
令和6年度			校	%	
令和7年度			校	%	
指標値の算定・把握方法	改修工事実施件数				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	学校・工事担当部局の協力のもと、彦系中学校校舎改修工事及び前川中学校校舎改修工事設計業務委託が完了した。		
改善策	学校運営への影響を最低限におさえられるよう設計業務を進める	評価ランク (A～F)	A+
		PDCA	機能している
実績報告	学校教育施設個別計画に基づき、令和5年度は彦系中学校校舎改修工事及び前川中学校校舎改修工事設計業務委託が完了した。 ○彦系中学校校舎改修工事 ・工事請負費 396,935,000円 ・委託料(工事監理費) 8,470,000円		
	○前川中学校校舎改修工事設計 ・委託料 15,180,000円 合 計 420,585,000円		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1001049		
事業名		学校選択制事務		
総合計画 位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	学校教育部
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる	担当課名	学務課
			所属長名	
	施策	2-2-1 質の高い教育及び環境の充実	担当者名	
			開始年度	平成16年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等		
何をする事業か (概要)	市民へ市広報やホームページで周知するとともに、学校公開の実施や学校紹介冊子を作成配布して各学校の情報提供を行う。	
何の為にやるのか (目的)	生徒及び保護者が自ら学校を選択することにより、学校教育に対する意欲が向上し、一層の学校教育の充実を目指す。	
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	学齢生徒及び保護者	
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	生徒及び保護者が自ら学校を選択することにより、学校教育に対する意欲が向上し、一層の学校教育の充実を目指す。	
	課題	中学校の学校選択制については、「学校と地域との関わり」や「学校の適正規模の確保」の観点から制度の見直し等について継続協議としている。
	対応	選択制実施の状況や保護者等の意見を踏まえ、制度の在り方を検討する。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	生徒及び保護者が自ら学校を選択することにより、学校教育に対する意欲が向上し、一層の学校教育の充実が図られる。	

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	0	0			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	1	504,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	30				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0
定型・非定型業務	定型業務				合計
業務の難易度	普通				504,000

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	学校公開参観者数				目標値
単位	%				120
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		0	%	0	%
令和4年度		0	%	0	%
令和5年度		49.85	%	41.5	%
令和6年度			%		%
令和7年度			%		%
指標値の算定・把握方法	翌年度新中学生に対する中学校公開への延べ参加児童数の割合				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	学校評価における中学校の自己評価結果				目標値
単位	点				3.5
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		3.44	点	98.3	%
令和4年度		3.46	点	98.9	%
令和5年度		3.44	点	98.3	%
令和6年度			点		%
令和7年度			点		%
指標値の算定・把握方法	中学校の自己評価結果の平均点				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	選択制の実施により、児童及び保護者の学校選択における選択肢が広められている。		
改善策	選択後の学校規模等を鑑み、学校選択制の制度についての確認・見直しをしていきたい。	評価ランク (A～F)	A
		PDCA	機能している
実績報告	・中学校入学希望状況集計結果時の希望者数 学区内の中学校2, 057名、学区外の中学校474名、合計2, 531名。 ・学区内生徒のみで定員オーバーしたため抽選ができなかった中学校及び人数 北中学校(5名) ・抽選を実施した中学校 瑞穂中学校 ・新年度入学時に抽選辞退者を除き、希望校に入学できなかった人数 瑞穂中希望者8名		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1001075		
事業名		小・中学校学校司書配置事業		
位置付け 総合計画の 位置付け	まちづくり方針	6 誰もが生きがいをもち輝くまちづくり	担当部名	学校教育部
	施策の柱	6-1 誰もがいつでも読書に親しむ環境をつくる	担当課名	学務課
	施策	6-1-2 読書環境の整備	所属長名	
			担当者名	
			開始年度	平成22年度
		終了年度		

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	学校司書を市内小・中学校に配置することで、貸出、返却、レファレンス、図書館環境整備のほか探求型学習などの読書支援を行う。
何の為にやるのか (目的)	小・中学校に通学する児童・生徒の読書活動の質と量を向上させる。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	市内小・中学校に通学する児童生徒
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	小・中学校に通学する児童・生徒の読書活動の質と量を向上させる。
	課題 読書の質と量(貸出冊数)の向上
	対応 読書の質は、調べ学習など探求型学習の支援を行う。 読書の量(貸出冊数)は、特に中学校での図書館利用促進を働きかける。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	児童生徒の読書の質と量の向上を目指す。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	46,640,000	46,640,000			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	0	84,000	
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	5				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0	
定型・非定型業務	定型業務				合計	
業務の難易度	普通				84,000	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	1校あたりの年間司書配置日数				目標値 96
単位	日				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		94.8	日	98.8 %	
令和4年度		94.8	日	98.8 %	
令和5年度		94.8	日	98.8 %	
令和6年度			日	%	
令和7年度			日	%	
指標値の算定・ 把握方法	2日×4週×12か月で算定 委託業者からの業務報告等で把握				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	貸出冊数				目標値 110
単位	冊				指標数値のめざす方向 増加
		実績値		達成率	
令和3年度		101.5	冊	109.1 %	令和3年度計画値93冊
令和4年度		93.7	冊	98.6 %	令和4年度計画値95冊
令和5年度		85	冊	87.6 %	令和5年度計画値97冊
令和6年度			冊	%	
令和7年度			冊	%	
指標値の算定・ 把握方法	平均貸出冊数で算定 委託業者からの業務報告等で把握				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	「日本一の読書のまち」三郷を推進していく上で、図書館業務の専門性を生かした人材を配置することにより、読書教育の向上を図るため、引き続き実施していきたい。		
改善策	調べ学習など探求型学習の支援を行い、特に中学校での読書量を向上させる。	評価ランク (A~F)	A
		PDCA	十分機能している
実績報告	「日本一の読書のまち」三郷の推進を具体的に実施していくため、学校司書を市内小中学校に週2日、1日6時間配置した。 各学校の図書館教育担当教員と連携し図書館の環境整備を充実させ、児童生徒への読み聞かせや、図書館を活用した学習支援、調べ学習に必要な本の紹介など、授業に対する支援を実施し学校図書館教育の継続的な向上を図った。		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等						
事務事業コード		1001625				
事業名		学校給食センター整備等事業				
位置付け 総合計画の	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり			担当部名	学校教育部
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる			担当課名	学務課
					所属長名	
	施策	2-2-1 質の高い教育及び環境の充実			担当者名	
					開始年度	令和4年度
				終了年度		

事務事業の目的、概要等		
何をする事業か (概要)	経年劣化が進む岩野木学校給食センターの再整備を行う。	
何の為にやるのか (目的)	法令に定められた学校給食センターを再整備し、異物混入や食中毒を起こさない、より安全・安心で栄養バランスのとれた美味しい学校給食を提供するため。	
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	学校給食を喫食する小中学校の児童生徒	
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	「学校給食衛生管理基準」「大量調理施設衛生管理マニュアル」に適合させ、より安全・安心な学校給食を提供し、児童生徒の生涯にわたる健康の保持増進を図る。	
	課題	多額の財政負担が見込まれるため、長期的な計画が必須。
	対応	関係部署との調整
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	将来にわたって、安全・安心で安定的に学校給食を提供できる体制が構築される。	

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	45,650,000	766,652,000			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	157,961,000			
県支出金	0	0			
交付金等の概要	学校施設環境改善交付金(学校給食施設整備事業)				
財源意識	☒ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☒ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☐ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	0	336,000	教育総務課教員環境整備室に学校給食センター整備等事業を担当する職員が1名配置。
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	20				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0	
定型・非定型業務	非定型業務				合計	
業務の難易度	専門				336,000	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	敷地選定、実施設計、工事、解体設計、解体工事				目標値
単位					100
					指標数値のめざす方向
		実績値		達成率	増加
令和3年度				%	
令和4年度		30		30	%
令和5年度		45		45	%
令和6年度				%	
令和7年度				%	
指標値の算定・把握方法					

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	整備完了				目標値
単位					1
					指標数値のめざす方向
		実績値		達成率	増加
令和3年度				%	
令和4年度				%	
令和5年度				%	
令和6年度				%	
令和7年度				%	
指標値の算定・把握方法					

事業の評価・改善/実績報告			
評価	老朽化した岩野木学校給食センターを文部科学省で定めている「学校給食衛生管理基準」に適合した給食センターに整備するため、令和5～6年度にかけて、三郷市立瑞沼市民センターグランド跡地にて建て替えることを目的とした(仮称)三郷市立瑞沼学校給食センター新築工事における建築・機械・電気・外構の工事請負、監理業務委託、厨房機器製造、建設に伴う修繕及び環境事前調査業務委託を実施することが出来た。 学校給食センター整備検討会を開催し、関係課との情報共有を図り、より安全・安心で安定した中学校給食の実現に向けての体制が構築された。また、工事請負業者・監理業務委託業者との(仮称)三郷市立瑞沼学校給食センター新築工事関連定例会を開催し、工事の進捗状況や市からの報告事項等を協議し、安全に新築工事が進捗できるよう情報共有を図った。 また、学校施設環境改善交付金(国庫補助金)を活用した。		
改善策	より安全・安心で安定した給食センターの整備に向けて、関係課との連携及び工事請負業者との連携の強化を図る。	評価ランク (A～F)	B+
		PDCA	機能している
実績報告	○建設費高騰に伴い補正予算の要求 ○学校給食センター整備等検討会の年2回の開催 ○工事関連定例会の開催10回 ○建設工事及び修繕・委託料等の契約 需用費(3件修繕)3,575,000円 工事請負費(4件工事契約)757,130,000円 委託料(事前調査、監理)5,947,000円 ○国庫補助金の申請 学校施設環境改善交付金(国庫補助金)173,738,000円		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1000563		
事業名		教育相談室運営事業		
総合計画の位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	学校教育部
			担当課名	指導課
	施策の柱	2-1 子どもを育てやすい環境をつくる	所属長名	
			担当者名	
	施策	2-1-3 子どもや子育て家庭への支援	開始年度	平成10年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	相談業務、適応指導教室の運営を行う。 教職員への教育相談に係る指導助言をする。
何の為にやるのか (目的)	心の教育の推進と多様な教育ニーズへ対応するため。 不登校の根絶と早期発見・早期対応。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	悩みを抱える児童生徒・保護者、及び教職員
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	教育相談体制の充実を図る。
	課題 相談件数の増加と、児童生徒や家庭の多様化する課題・ニーズに対応することが困難である。
	対応 学校と教育相談室・適応指導教室の連携を強化する。スクールソーシャルワーカーを効果的に活用する。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	教育相談に係る教職員の指導力を向上させることができ、児童生徒・保護者の多様なニーズに対応することができる。

歳出・歳入					
				歳出	
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	3,268,315	4,446,378			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン				
	☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	11	8,994,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	5				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0
定型・非定型業務	非定型業務				合計
業務の難易度	専門				8,994,000

市内3つの相談室には3名ずつ、計9名の専門的知識・技能を持つ専任教育相談員を配置するとともに、三郷市第1教育相談室に教育相談室統括コーディネーター・教育相談室連携コーディネーターを配置し、1年間を通じて、市内の児童生徒・保護者・教職員の相談に対応した。

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	相談件数				目標値
単位	回				3000
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		4470	回	149 %	増加
令和4年度		5888	回	196.3 %	
令和5年度		5076	回	169.2 %	
令和6年度			回	%	
令和7年度			回	%	
指標値の算定・把握方法	市内3つの教育相談室の相談件数を集計する。				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	適応指導教室通室児童生徒の改善率				目標値
単位	%				80
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		83.2	%	104 %	増加
令和4年度		84.2	%	105.3 %	
令和5年度		84.7	%	105.8 %	
令和6年度			%	%	
令和7年度			%	%	
指標値の算定・把握方法	適応指導教室通室児童生徒の中で、学校復帰に向けて改善兆候の見られる児童生徒の割合を算出する。				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	相談件数は目標値を上回っており、相談体制を効果的に活用できた。適応指導教室に通室する児童生徒の多くが、学校内の別室に登校したり、適応指導教室に継続的に通室したりするなど、学校復帰に向けて前進しており、改善傾向が見られた。		
改善策	相談体制をさらに充実させるとともに、各学校との情報共有を密にし、児童生徒一人一人の多様なニーズに対応できるよう、継続的に支援できる体制を強化する。	評価ランク (A～F)	B+
		PDCA	機能している
実績報告	・教育相談室連絡協議会(毎月実施) ・専任教育相談員による学校訪問の実施 ・相談員研修会の実施		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1000575		
事業名		学力向上推進事業		
総合計画の位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	学校教育部
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる	担当課名	指導課
			所属長名	
	施策	2-2-1 質の高い教育及び環境の充実	担当者名	
			開始年度	平成29年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	児童生徒一人一人の学習習熟度を確かめ、個に応じた指導に生かす。学級・学校の課題をつかみ課題解決の取組を実施し、授業改善を図る。
何の為にやるのか (目的)	各種テストや調査を実施し、その結果を分析することで各校の課題、児童・生徒の課題を把握し、学力向上に係る教育活動に生かす。教育指導員を配置し、校内研修等において教師指導に当たる。
誰・何に対する事業か (事業の対象)	小中学生
目的達成のため、事業の対象を、どうしたいのか (目指す成果)	基礎的な学力を身に付けさせるとともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回る。
	課題 各テストや調査の分析による学力向上の手立てがどれだけその後の成果として現れたかを把握することが難しいものもある。
	対応 校内研修の質を向上させ、日々の授業改善を図る。
目的を達成することで、市がどうなるか (事業の意義)	児童・生徒の学力が向上して活気づき、三郷の学校を選ぶ市民が増える。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	3,930,020	3,966,380			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン				
	☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	0	504,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	30				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0
定型・非定型業務	非定型業務				合計
業務の難易度	専門				504,000

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	教育指導員の指導訪問回数				目標値
単位	回				100
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		110	回	110 %	維持
令和4年度		309	回	309 %	
令和5年度		288	回	288 %	
令和6年度			回	%	
令和7年度			回	%	
指標値の算定・把握方法	毎月の教育指導員からの訪問報告書から把握する。				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	全国学力・学習状況調査における全国平均超えの調査問題数				目標値
単位	調査問題数				5
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		5	調査問題数	100 %	維持
令和4年度		29	調査問題数	580 %	
令和5年度		42	調査問題数	840 %	
令和6年度			調査問題数	%	
令和7年度			調査問題数	%	
指標値の算定・把握方法	全国学力・学習状況調査結果から把握する。				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	全国学力・学習状況調査では、県や市、学校の実態が注目され、学力向上を求める保護者等、市民の期待が大きい。		
改善策	教育指導員の指導訪問回数を維持若手教員の一層の授業改善を目指す。 授業改善の推進により、全国学力・学習状況調査における全国平均超えの調査問題数の増加につなげる。	評価ランク (A～F)	A
		PDCA	十分機能している
実績報告	全国学力・学習状況調査(小6・中3対象)では、小学校で全国平均を上回った。 第3期学力向上推進3カ年計画の2年目として、小・中学校ともに学力向上に一定の成果が見られる。 中学校の学力向上に課題が見られるものの、令和4年度よりも全国平均に近づいている。		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1001208		
事業名		読書のまち三郷づくり推進事業		
総合計画の位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	学校教育部
			担当課名	指導課
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる	所属長名	
			担当者名	
	施策	2-2-1 質の高い教育及び環境の充実	開始年度	平成24年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	読書フェスティバルを開催する。 全国家読うびんコンクールを実施する。
何の為にやるのか (目的)	「日本一の読書のまち」宣言の具現化に向け、毎年度「全国家読うびんコンクール」及び「読書フェスティバル」を実施し、読書活動の推進を図る。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	市内全小中学校児童生徒・保護者・市民
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	家読を推進し、家庭における読書環境を整え、子供たちに読書を通じた感性を醸成する。
	課題 保護者に家読の良さを周知し、家庭の協力を得ること。
	対応 三郷家読の日(11月23日)を周知するとともに、家読うびんコンクールを毎年度開催する。 読書フェスティバルにて家読うびんコンクールの表彰及び小中学校の取組を広める。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	市民総ぐるみの読書活動が推進され、「日本一の読書のまち」の実現が図られる。

歳出・歳入				
歳出				
総事業費(合計) (単位:円)	実績			
	令和4年度決算	令和5年度決算		
	1,117,670	1,049,546		
歳入(補助金等)				
特定財源	実績値			
	令和4年度決算	令和5年度決算		
使用料及び手数料	0	0		
国庫支出金	0	0		
県支出金	0	0		
交付金等の概要				
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン			
	☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持			

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	0	672,000	全国家読うびんコンクールは、日本一の読書のまち推進課と連携して事業を行っている。
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	40				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0	
定型・非定型業務	非定型業務				合計	
業務の難易度	普通				672,000	

活動指標 ※市が何をするか						
指標名	全国家読うびんコンクール応募作品数				目標値	17000
単位	点				指標数値のめざす方向	増加
		実績値		達成率		
令和3年度		17695	点	104.1	%	
令和4年度		17477	点	102.8	%	
令和5年度		14775	点	86.9	%	
令和6年度			点		%	
令和7年度			点		%	
指標値の算定・把握方法	全国家読うびんコンクール応募作品数を数える。					

成果指標 ※市民(市)がどうなったか						
指標名	一人あたりの学校図書館年間平均貸出冊数				目標値	50
単位	冊				指標数値のめざす方向	維持
		実績値		達成率		
令和3年度		101.5	冊	203 %		
令和4年度		93.7	冊	187.4 %		
令和5年度		85	冊	170 %		
令和6年度			冊	%		
令和7年度			冊	%		
指標値の算定・把握方法	各学校からの貸出冊数報告から集計する。					

事業の評価・改善/実績報告			
評価	読書フェスティバルでは、全国家読うびんコンクール特別賞表彰式と、本市応援団長柳田邦男先生との読書ディスカッションを実施した。全国家読うびんコンクールには全国から14, 775点の応募があり、ホストタウンであるギリシャ共和国からも4通の家読うびんが届けられた。読書ディスカッションは、小学生2名、中学生2名、一般2名の計6名と柳田先生が、自身の「忘れられない本、大切な本」の内容について語り合った。		
改善策	読書フェスティバルの内容の検討 より質の高い読書活動の充実を目指し、研修の充実を図る。	評価ランク (A～F)	B+
		PDCA	機能している
実績報告	○学校読書活動推進協議会の組織及び運営 ・「日本一の読書のまち三郷」調べるコンクールの実施と審査(合計1, 633点の応募があり、うち25点を全国へ推薦し、1点が優秀賞を受賞) ・全国家読うびんコンクールの実施と審査(合計14, 775点の応募) ・学校図書館を活用した授業研究会の実施(三郷市立彦糸小学校) ○第17回三郷市読書フェスティバルは、全国家読うびんコンクール表彰式と読書ディスカッションを実施		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1000623		
事業名		郷土資料館運営管理事業		
総合計画の 位置付け	まちづくり方針	6 誰もが生きがいを持ち輝くまちづくり	担当部名	生涯学習部
	施策の柱	6-2 誰もが学び、健康で生きがいの持てる文化の息づくまちをつくる	担当課名	生涯学習課
			所属長名	
	施策	6-2-4 文化財・伝統文化の保存・継承	担当者名	
			開始年度	昭和54年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	資料の収集、整理、保存に努め、歴史文化や民俗等に関する展示公開・情報発信を通じて、文化財に親しむ機会の創出や市民の学習意欲、文化財保護思想の普及啓発に資する。
何の為にやるのか (目的)	文化財に親しむ機会の創出及び地域文化の発展に寄与し、文化遺産の継承を図るため。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	市民等
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	展示物の整理と充実、活用を通じて、市民の生涯学習及び地域文化の発展に寄与し、文化遺産の保存を図る。
	課題 文化財に親しむ機会の創出
	対応 企画展・常設展の創意工夫及び新しい生活様式に対応し、デジタル技術・インターネット環境を活用した情報発信に努める。
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	生涯学習機会の創出及び地域文化の発展に寄与し、文化遺産の継承が図られる。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	2,254,310	2,224,776			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識					
☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持					

業務分析(量と質)					
	年間			人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	1	パートタイム	0	672,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	40			時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0			0	
定型・非定型業務	定型業務			合計	
業務の難易度	普通			672,000	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	展示・ホームページ等更新回数				目標値 3
単位	回				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		5	回	166.7 %	
令和4年度		4	回	133.3 %	
令和5年度		2	回	66.7 %	
令和6年度			回	%	
令和7年度			回	%	
指標値の算定・把握方法	実績回数				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	入館者数				目標値 2000
単位	人				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		1095	人	54.8 %	
令和4年度		1532	人	76.6 %	
令和5年度		1595	人	79.8 %	
令和6年度			人	%	
令和7年度			人	%	
指標値の算定・把握方法	入館票により把握				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	郷土資料館、彦成小学校講堂記念館を開館し、郷土文化の伝承と生涯学習意欲の高揚を図ることができた。		
改善策	生涯学習機会の創出及び地域文化の発展に寄与するとともに、郷土資料館事業の展開や展示内容の創意工夫と周知を図る。	評価ランク (A~F)	A
		PDCA	機能している
実績報告	○郷土資料館 入館者数 1191名 ○彦成小学校講堂記念館 入館者数 404名 ○常設展示替え ・三郷と流山をつなぐ橋 ・三郷の無形民俗文化財について ○市ホームページリニューアルに合わせて「みさとデジタルミュージアム」などの改修を実施		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1000972		
事業名		放課後子ども教室推進事業		
位置付け 総合計画の 位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	生涯学習部
	施策の柱	2-1 子どもを育てやすい環境をつくる	担当課名	生涯学習課
	施策	2-1-2 子育てと仕事の両立支援	所属長名	
			担当者名	
			開始年度	平成21年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	子どもたちが安全・安心に活動できる拠点(「放課後子ども教室」)を整備する。
何の為にやるのか (目的)	地域社会において心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	小学1～6年生
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	地域社会において心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
	課題 新型コロナウイルス感染防止策を講じた事業の実施、小学校内への新設
	対応 地域・学校・PTA等、関係者との十分に協議・調整を図りつつ、事業を実施する。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	子どもたちが、小学校内の安全安心な環境の中で活動できる場所が確保される。

歳出・歳入

歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	469,056	631,817			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	101,000	176,000			
県支出金	101,000	176,000			
交付金等の概要	放課後子ども教室推進事業補助金				
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	2	パートタイム	0	1,680,000	
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	50				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0	
定型・非定型業務	定型業務				合計	
業務の難易度	普通				1,680,000	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	放課後子ども教室設置数				目標値 4
単位	教室				指標数値のめざす方向 増加
		実績値		達成率	
令和3年度		2	教室	50 %	
令和4年度		2	教室	50 %	
令和5年度		3	教室	75 %	
令和6年度			教室	%	
令和7年度			教室	%	
指標値の算定・把握方法	開室教室数				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	放課後子ども教室の参加者(登録人数)				目標値 100
単位	人				指標数値のめざす方向 増加
		実績値		達成率	
令和3年度		0	人	0 %	
令和4年度		25	人	25 %	
令和5年度		74	人	74 %	
令和6年度			人	%	
令和7年度			人	%	
指標値の算定・把握方法	登録児童者数				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	「学び」「遊び」「交流」を組み合わせた体験活動を実施し、子どもたちの成長を育む環境づくりに寄与した。		
改善策	児童の参加を促進できる活動プログラムの検討に努める。	評価ランク (A~F)	A
		PDCA	機能している
実績報告	・本年度から吹上小学校内において、風吹くらぶが新たにスタートした。 ・地域の方々の協力を得て、「さくらんぼキッズ(桜小学校内)」「いとっこひろば(彦糸小学校内)」「風吹くらぶ(吹上小学校内)」の3教室において開催。 ・登録者74名。(さくらんぼキッズ30名、いとっこひろば20名、風吹くらぶ24名) ・学習・工作・体験活動等を通じて、参加者同士の交流促進や子どもたちの安心・安全な活動場所を提供した。		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1001070		
事業名		市民大学事業		
位置付け 総合計画の 位置付け	まちづくり方針	6 誰もが生きがいをもち輝くまちづくり	担当部名	生涯学習部
	施策の柱	6-2 誰もが学び、健康で生きがいの持てる文化の息づくまちをつくる	担当課名	生涯学習課
			所属長名	
	施策	6-2-1 生涯学習の推進	担当者名	
			開始年度	平成20年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	「みさと生きいき大学」「子ども大学みさと」の開催。
何の為にやるのか (目的)	多様な生涯学習ニーズに応え、生きがいつくりに資する「みさと生きいき大学」を開催する。また、子どもの生きる力と学ぶ力を育むため「子ども大学みさと」を開催する。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	「みさと生きいき大学」 → 市民 「子ども大学みさと」 → 市内在住の小学5～6年生
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	学びの循環が形成される。
	課題 市民の多様な学習意欲に応える講座内容の充実
	対応 先進事例の収集や関係機関との連携強化を通じて講座内容の充実を図る。
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	学びの循環の形成や将来を担う人材の育成につながる。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	5,572	19,647			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識					
☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持					

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	2	パートタイム	0	672,000	
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	20				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0	
定型・非定型業務	定型業務				合計	
業務の難易度	普通				672,000	

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	事業数				目標値 2
単位	事業数				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		2	事業数	100 %	
令和4年度		1	事業数	50 %	
令和5年度		2	事業数	100 %	
令和6年度			事業数	%	
令和7年度			事業数	%	
指標値の算定・把握方法	実績報告書				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	参加人数				目標値 100
単位	人				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		52	人	52 %	
令和4年度		38	人	38 %	
令和5年度		97	人	97 %	
令和6年度			人	%	
令和7年度			人	%	
指標値の算定・把握方法	実績報告書(参加者延べ人数)				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	参加者アンケートにおいて、一定の評価を得られた。 「みさと生きいき大学」と「子ども大学みさと」のアンケート(とても満足・満足)86%		
改善策	多様な学習ニーズに応える講座の開催に向け、創意工夫を図る。	評価ランク (A~F)	A+
		PDCA	機能している
実績報告	○みさと生きいき大学(令和5年11月22日・29日 2回コース) ・会場 瑞沼市民センター 多目的室 ・協力機関 立正大学研究推進・地域連携センター ・参加者32名(延べ61名) ○子ども大学みさと 8月22日 ・会場 北公民館 研修室 ・協力機関 首都圏新都市鉄道株式会社 ・参加者18名 8月23日 ・会場 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校 ・協力機関 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校 ・参加者18名		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1000634		
事業名		青少年育成事業		
位置付け 総合計画の 位置付け	まちづくり方針	2 子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり	担当部名	生涯学習部
	施策の柱	2-2 子どもや若者が学び、健やかに育つ環境をつくる	担当課名	青少年課
			所属長名	
	施策	2-2-2 青少年健全育成の推進	担当者名	
			開始年度	昭和52年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	バスハイクや宿泊体験等とおして「生きる力」を育み、地域の子ども会や学校活動などでリーダー的役割を担える青少年を育成する。また、青少年団体員へはボランティア活動の場の提供を行い、自主企画事業の実施、運営ができるよう補助を行うことでボランティアリーダーを育成する。
何の為にやるのか (目的)	地域の子ども会や学校・ボランティア活動において、リーダー的役割を担う人材育成のため。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	市内在住の小学4年生～大学生
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	1. 小・中学生においては異年齢集団における規律順守や仲間を思いやり協力する大切さなどを身に着ける。 2. 高校・大学生においては子ども会やボランティア活動における知識や技術を身に着ける。
	課題 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業や活動が突然変更や中止になることが多く、参加者や活動意識の高い青少年の意識を低下させてしまう。そのため、継続的な事業への参加や活動に繋がらない。
	対応 急な変更や中止を想定し、余裕を持ったスケジュール設定を行う。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	リーダー的役割を担う青少年が増えることで、将来の三郷市の地域活性化に繋がる。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	42,663	91,992			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	4	パートタイム	0	2,688,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	40				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	0				0
定型・非定型業務	定型業務				合計
業務の難易度	普通				2,688,000

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	事業実施日数				目標値 7
単位	日				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度			日	%	
令和4年度		3	日	50	%
令和5年度		3	日	43	%
令和6年度			日	%	
令和7年度			日	%	
指標値の算定・把握方法	事業実施日数の確認				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	事業参加人数				目標値 90
単位	人				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度			人	%	
令和4年度		45	人	75	%
令和5年度		59	人	66	%
令和6年度			人	%	
令和7年度			人	%	
指標値の算定・把握方法	事業参加人数の確認				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	コロナ禍の影響で、各事業の参加者を縮小して開催した。 定員を各30名で実施。 感染防止対策を徹底したため、人数を縮小したが、参加者に満足してもらえ、リピーターを確保することができた。		
改善策	次代を担う青少年を多く募るために、様々な工夫を凝らす必要がある。	評価ランク (A～F)	A
		PDCA	概ね機能している
実績報告	【もしも！？に備えて防災を学ぼう】 ●日 時 令和5年6月18日(日) ●会 場 本所防災館(東京都墨田区) ●参加者 市内小学4年生～小学6年生 19名 ●内 容 班ごとに災害時に役立つ知識や体験学習をする 【夏の終わりの大冒険！上野恩賜公園クイズラリー】 ●日 時 令和5年9月3日(日) ●会 場 上野動物園・国立科学博物館(東京都台東区) ●参加者 市内小学4年生～小学6年生 20名 ●内 容 班ごとにクイズラリーを行う 【大自然で遊ぼう！in清水公園】 ●日 時 令和5年11月12日(日) ●会 場 清水公園(千葉県野田市) ●参加者 市内小学4年生～小学6年生 20名 ●内 容 野外炊事やフィールドアスレチック		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1001081		
事業名		親の学習推進事業		
総合計画の位置付け	まちづくり方針	6 誰もが生きがいをもち輝くまちづくり	担当部名	生涯学習部
	施策の柱	6-2 誰もが学び、健康で生きがいの持てる文化の息づくまちをつくる	担当課名	青少年課
			所属長名	
	施策	6-2-1 生涯学習の推進	担当者名	
			開始年度	平成22年度
			終了年度	

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	家庭の教育力の向上を図るため、子育て世代には子育てに必要な知識やスキルを提供し、近い将来親となる世代には子育て等の理解を深める機会を提供する。
何の為にやるのか (目的)	家庭における教育力の向上のため
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	乳幼児をもつ保護者、小・中・高校生の保護者、中・高校生、一般市民
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	子どもを取り巻く人たちが、子育て世代を応援し、地域全体で子育てを見守り、支え合う意識をもつこと、それが世代間で循環していくことで家庭の教育力を向上させる。
	課題 核家族化の進行に伴い、子育ての悩みを抱え込んでしまう若い親が増えつつあるという、孤立する子育て家庭を地域でどう支えていくか
	対応 「乳幼児の保護者対象講座」を積極的に実施することで、親同士が悩みを話し合い、情報交換を通して、安心して子育てに取り組める地域社会の構築を図る
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	青少年が豊かな人間性を育み、社会で生きる力と創造力を身に付けることで、人が育ち活躍できる街づくりができる。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	675,459	1,249,671			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン				
	☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	2	パートタイム	0	1,344,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	40				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	36				90,000
定型・非定型業務	定型業務				合計
業務の難易度	専門				1,434,000

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	「親の学習」講座開催数				目標値
単位	回				230
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		102	回	44.3 %	維持
令和4年度		73	回	31.7 %	
令和5年度		81	回	35.2 %	
令和6年度			回	%	
令和7年度			回	%	
指標値の算定・把握方法					

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	「親の学習」講座参加者満足度				目標値
単位	%				80
		実績値		達成率	指標数値のめざす方向
令和3年度		70	%	87.5 %	維持
令和4年度		80	%	100 %	
令和5年度		95	%	118.8 %	
令和6年度			%	%	
令和7年度			%	%	
指標値の算定・把握方法	講座終了後の参加者アンケート中、「新たな気付きや改めて考えさせられたことはありましたか」の設問に、「はい」と回答した人数の割合。				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	講座数・参加人数ともに増加した。動画配信型講座の実施やZOOMによるオンライン講座等、状況に応じて開催方法を変更し、実施することができた。		
改善策	講座に関心をもってもらうために、どうアプローチしていくか、PTAや育成会との協力のもと改善していきたい。 また、講座の質の向上を目指し、講座を担当するファシリテーターの研修機会を多く設けるよう努める。	評価ランク (A～F)	B+
		PDCA	機能している
実績報告	【令和5年度実績】 ○講座数 81講座 ○参加者 1,345名参加 ○講座内訳 ・小中学校保護者向け講座 現地 12講座 ハイブリッド(現地・オンライン同時開催) 9講座 ・乳幼児親子向け講座 現地 10講座 ハイブリッド(現地・オンライン同時開催)17講座 ・就学時健康診断時講座 現地 10講座 学校要請における教育相談(テスト運用) 3講座 ・PTA保護者向け講座 現地 5講座 ・高校生向け講座 現地 15講座 ・動画配信型講座(ハイブリッドも含む) 26講座		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等				
事務事業コード		1000621		
事業名		図書館運営事業		
位置付け 総合計画の 位置付け	まちづくり方針	6 誰もが生きがいをもち輝くまちづくり	担当部名	生涯学習部
	施策の柱	6-1 誰もがいつでも読書に親しむ環境をつくる	担当課名	日本一の読書のまち推進課
	施策	6-1-1 読書を通じた交流の推進	所属長名	
			担当者名	
			開始年度	昭和58年度
		終了年度		

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	図書、記録その他必要な資料を整理、保存し市民の利用に供する。
何の為にやるのか (目的)	「日本一の読書のまち宣言」に基づき、市民の読書に親しむ機会を増やし、教養、調査研究、レクリエーションに資するため。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	市民
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	市民が自ら読書に親しみ、また学習要求や問題解決のためのひとつの方法として図書館を積極的に利用する。
	課題 全市的な図書館認知度の向上及び利用の促進
	対応 魅力的な図書館サービスの実施及びそのPRに力を入れる。
目的を達成することで、 市がどうなるか (事業の意義)	読書体験の共有などを通じて市民が交流することで、人と人とのネットワークが育まれ新たなコミュニティ社会が創生される。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	11,807,736	15,467,630			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☐ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)						
	年間				人件費相当額	特記事項
人員(担当)	フルタイム	14	パートタイム	30	7,761,600	司書の専門性を活かし、利用者の相談や質問に応じて、図書館所蔵する本の中から適切な資料を選び提供している。また本との出会いの機会を創出するため、様々な切り口で特集展示を行うほか、各種の読書啓発事業を実施している。
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	33				時間外等	
時間外勤務時間(職員のみ)	178				445,000	
定型・非定型業務	非定型業務				合計	
業務の難易度	専門				8,206,600	

活動指標 ※市が何をするか							
指標名		図書館開館日数			目標値		290
単位		日			指標数値のめざす方向		維持
		実績値		達成率			
令和3年度		292	日	100.7	%		
令和4年度		236.3	日	81.5	%		
令和5年度		285	日	98.3	%	システム更新のため全館2週間休館した	
令和6年度			日		%		
令和7年度			日		%		
指標値の算定・把握方法		図書館3館の開館日数の合計を3で割り、小数点以下を四捨五入する。					

成果指標 ※市民(市)がどうなったか							
指標名		貸出点数			目標値		810000
単位		点			指標数値のめざす方向		増加
			実績値		達成率		
令和3年度			762964	点	94.2	%	システム更新のため全館2週間休館した
令和4年度			681048	点	84.1	%	
令和5年度			672533	点	83	%	
令和6年度				点		%	
令和7年度				点		%	
指標値の算定・把握方法		図書館資料の貸出点数					

事業の評価・改善/実績報告			
評価	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行したことに伴い、図書館・図書室は通常どおり開館をすることができた。また、図書館資料を有効に活用することにより市民の教養、調査研究、レクリエーション等に対する要望に応えることができた。市内各地に図書館の本を届けるラッピングカー「ふれあいブックワゴン」の2号車を新たに導入し、乳幼児施設や小中学校、高齢者施設などに読書の機会を提供した。		
改善策	司書の専門性を生かした読書案内や参考調査(レファレンス)を行い、市民の図書館利用の増加につなげる。	評価ランク (A~F)	A
		PDCA	
実績報告	【利用状況】 - 蔵書冊数 501,636冊 - 利用者数 223,427名 - 貸出点数 672,533点 (貸出冊数内訳 一般書 321,903冊 児童書 300,677冊 雑誌 32,672冊 視聴覚資料 17,281点) 【主な事業】 - 子ども向けお話し会 - かがく遊び - 季節の行事 - 出張図書館サービス - 企画展示 - 一般及び高齢者向け読書啓発事業		

事務事業評価表

令和5年度事務事業

事後評価

事務事業名、担当課等						
事務事業コード		1001310				
事業名		「日本一の読書のまち」推進事業				
位置付け 総合計画の 位置付け	まちづくり方針	6 誰もが生きがいをもち輝くまちづくり			担当部名	生涯学習部
	施策の柱	6-1 誰もがいつでも読書に親しむ環境をつくる			担当課名	日本一の読書のまち推進課
	施策	6-1-1 読書を通じた交流の推進			所属長名	
					担当者名	
				開始年度	平成26年度	
				終了年度		

事務事業の目的、概要等	
何をする事業か (概要)	「第2次日本一の読書のまち三郷推進計画」に掲げる将来像を実現するため、「どこでも本と出会える環境」、「いつでもそこに本がある人生」、「誰でも本を通じてつながる」を柱として各事業を推進し、読書活動の充実を図る。
何の為にやるのか (目的)	乳幼児から高齢者までのすべての市民が読書をととして人と人との絆を結び、いつでも読書に親しみ、心豊かに暮らすことができる文化のかおり高いまちを実現する。
誰・何に対する 事業か (事業の対象)	市民、読書活動に関連するすべての部署・機関・団体
目的達成のため、 事業の対象を、 どうしたいのか (目指す成果)	三郷市民の誰もが、読書の楽しさ、知る喜びにふれ、その人生をより豊かに魅力的なものにできる。
	課題 第2次日本一の読書のまち三郷推進計画に掲げる各種の施策充実を継続して行うための体制の確保
	対応 秋の読書まつりや文学講演会、各種講座の開催のほか、広報等を活用し、読書の楽しさや素晴らしさを伝える機会の提供、情報発信を行うことで、子ども司書や読書に関わるボランティアの人数増加や活動内容の充実を図る。
目的を達成すること で、市がどうなるか (事業の意義)	読書活動をととして人と人との絆を結び、誰もが、いつでも読書に親しみ、心豊かに暮らすことができる、文化のかおり高いまちとなる。

歳出・歳入					
歳出					
総事業費(合計) (単位:円)	実績				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
	2,400,705	2,293,196			
歳入(補助金等)					
特定財源	実績値				
	令和4年度決算	令和5年度決算			
使用料及び手数料	0	0			
国庫支出金	0	0			
県支出金	0	0			
交付金等の概要					
財源意識	☒ 前年比15%以上OFF ☐ 前年度比10%以上OFF ☐ 民間活力又は補助金の利用によりコストダウン ☐ 民間活力又は補助金を利用・施策推進による拡大 ☒ 拡大・現状維持				

業務分析(量と質)					
	年間				人件費相当額
人員(担当)	フルタイム	4	パートタイム	0	6,048,000
業務割合推計 (当該事務/係全体事務×100) 【勤務時間】	90				時間外等
時間外勤務時間(職員のみ)	176				440,000
定型・非定型業務	非定型業務				合計
業務の難易度	普通				6,488,000

活動指標 ※市が何をするか					
指標名	読書推進啓発事業(協働事業、講座、講演会等)の開催				目標値 15
単位	回				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		17	回	113.3	%
令和4年度		19	回	126.7	%
令和5年度		20	回	133.3	%
令和6年度			回		%
令和7年度			回		%
指標値の算定・把握方法	日本一の読書のまち推進課が主催、共催、協働事業とする読書啓発事業の総回数				

成果指標 ※市民(市)がどうなったか					
指標名	啓発イベント参加人数				目標値 2500
単位	人				指標数値のめざす方向 維持
		実績値		達成率	
令和3年度		1080	人	43.2	%
令和4年度		1400	人	56	%
令和5年度		4700	人	188	%
令和6年度			人		%
令和7年度			人		%
指標値の算定・把握方法	日本一の読書のまち推進課が主催、共催、協働事業とする読書啓発事業の総参加人数(* 啓発展示会は除く)				

事業の評価・改善/実績報告			
評価	「日本一の読書のまち宣言10周年」の記念の年に図書館と共に、乳幼児から大人までの読書活動を推進するため「第2次日本一の読書のまち三郷推進計画」に基づく各種の取組を行うとともに、庁内外の関連部署・機関・ボランティアと連携しイベントを実施することができた。また、ふれあい文庫の設置の拡大や第3期ふれあいブックサポーター養成講座の開催など、推進計画における重点施策を進めることができた。		
改善策	今後、文学講演会や絵本サーキット、子ども司書養成講座をはじめ各種イベント・講座について、参加者によるアンケートや関係者の意見聴取を活用し、改善を図る。	評価ランク (A~F)	A+
		PDCA	十分機能している
実績報告	【主な事業】 ○日本一の読書のまち宣言10周年記念文学講演会(講師:池上彰氏) ・日時 令和5年12月19日 参加人数 981名 ○日本一の読書のまち宣言10周年記念みさと秋の読書まつり2023 みさと絵本サーキット ・令和5年11月3日、11月4日(2日間の連続開催) 参加人数 1,095名 ・5人の絵本作家による講演会やおはなし会、市・出版社によるワークショップを開催。 ・日本児童図書出版協会と連携し絵本の販売やサイン会を開催。 ○第3期ふれあいブックサポーター養成講座(全3回) ・第1回目 令和5年10月7日、第2回目 10月28日、第3回目 11月22日、参加人数 47名 ○「親子で楽しむ絵本とわらべうた講座」 ・令和6年1月24日、1月31日(2日間の連続講座) 参加人数 30名 ○子ども司書によるおはなし会 ・令和5年度に11回開催 参加人数 237名 ○ボランティアが主体となったイベントへの協力 みさとブックマーケット ・令和6年2月24日 県営みさと公園で開催 参加人数 約2,300名 ○ふれあい文庫設置4箇所(みさとのパン工房SAKURA、大広戸東会館、高州郵便局、番匠免公民館) ○日本一の読書のまち三郷関連機関等連絡会 2回 ※関係機関等と連携を図った ○第12期子ども司書養成講座 全7回 22名受講		

VI 事務事業評価に関する懇話会委員のコメント

No. 1 公営児童クラブ運営事業

- ・待機児童 0 への努力として、幸房小第 2 児童クラブの設置などを行われているが、それらの対応等を踏まえ、評価ランク A は頷ける結果である。
- ・外国人のこどもが増えており、言葉の問題、社会生活の価値観の違いがあると思われるが、指導員に外国人を雇うというのも一つの手であるのではないか。
- ・指導員の確保と不足が難しい課題であると考えるが、夏季限定アルバイトの募集などを行っているということで、引き続き職員の確保に努めていただきたい。
- ・業務分析では業務の難易度が普通から専門になっているが、専門性が認められたということで、難しい業務であると感じるため納得である。
- ・目標値に対し成果指標は 100% 超えで推移しているが、今でも指導員の確保等大変な状況であるのに、ここからさらにあげることはできるのかと感じたため、目標値の修正を検討してもいいのではないかと感じた。

No. 2 入学準備金貸付事業

- ・公立高校の貸付申請が無かったことは残念である。原因として貸付金額の問題があると考えており、今後どうしていくかを検討していかなければならない。
- ・昭和 48 年からの歴史ある事業であり、教育の機会・均等に対応した事業であるので、意思を繋いでいってほしい。
- ・国立大学の学費の値上げ等、昨今の状況を考え、教育を受ける機会を平等にするために、私立高校と公立高校の貸付金額を同じにするべきではないかと感じる。
- ・教育の機会・均等の観点からすると、必要としている保護者が知らないという状況を作らないために、さらにしっかりと制度周知をし、事業の拡充を図っていただきたい。

No. 4 中学校校舎改修事業

- ・目標値と実績値を見ると、令和 5 年度で設計は終わったのではないかと思ったが、まだまだ改修すべき学校はあるということで、引き続きお願いしたい。
- ・計画通りに改修をしていただいております、評価ランク A+ は頷ける結果である。
- ・学校は災害時には避難所にもなるため、この事業を引き続きお願いしたい。
- ・国庫支出金が 1/3 程度に急減している点が気になったが、改修の計画は数年後まで把握されているということなので、引き続きお願いしたい。

No. 7 学校選択制事務

- ・学区内の入学希望者は全体の約 80%、学区外の入学希望者は全体の約 20% ということで、バランスの良い数字であり、学校の活性化の役割を果たしていると言える。
- ・市外に流れてしまう人を食い止めている事業なのではないかと感じるため引き続きお願いしたい。
- ・コミュニティスクールの関係をどのように捉えているのか、学校の選択制とは方向性が違う

と考えるため、そろそろ再検討をする時期ではないかを感じる。

No. 8 小・中学校学校司書配置事業

- ・図書室の変容により読書活動が盛んとなり、学力も上がっているという事実を踏まえると、読書力が学力向上に与えた影響がとても大きく、大変素晴らしい。
- ・5000万円という金額で、ここまで学力の上昇等、功績が残せたのは、大変コストパフォーマンスが良い事業であると感じる。
- ・とても大事な事業であるため、司書の方が、週に2回1日6時間から、さらに今よりも長く、多く配置することができるとより良いと考える。

No. 9 学校給食センター整備等事業

- ・歳入決算の市債が多額であるが、財政課等の協力をいただきながら行っていると思うので、引き続きお願いしたい。
- ・給食は子ども達にとって大事なものであるため、引き続きお願いしたい。
- ・令和6年度3学期から供用開始に向けて、引き続き頑張っていたきたい。

No. 11 教育相談室運営事業

- ・不登校問題について、三郷市の中学生は減少しているということで、この事業の大事さがよくわかる。
- ・ソーシャルワーカーを増やし、家庭に近づいたのはとても良いことだと感じる。
- ・歳入が令和4年度に比べ120万円増えているのは、統括コーディネーター、連携コーディネーター配置の兼ね合いということだが、それがこうして効果に繋がっているのなら嬉しいことである。
- ・評価ランク B+ということだが、これだけ対応をしてもらっているため、目標値が適正であるのか検討するのをもひとつも手か考える。

No. 19 学力向上推進事業

- ・中学校の学力向上に課題が見られるという部分について、分析の結果しだいでは確かな原因がわかるのであれば対応をお願いしたい。
- ・タブレットの使い方が気になるころではあるが、三郷市は学力があがっているということで、読書による影響もあるのかなと考える。
- ・タブレット学習が進む中、今後が気になるころである。

No. 23 読書のまち三郷づくり推進事業

- ・内容の濃い事業だと感じる。
- ・事業の中の、「学校図書館を活用した授業研究会の実施」について、こどもに直結する象徴的なイベントのため、素晴らしいと感じた。
- ・三郷市だからできる事業であり、こどもに本を読ませたい、触れさせたい先生たちの本気度を感じる。

- ・こども達の読書に対する取り組みが、大人にも広がってきていると感じる。
- ・評価ランクは B+だが、とても素晴らしい取り組みをされているため、目標値の修正を検討しても良いのではないかな。

No. 2 8 郷土資料館運営管理事業

- ・彦成小学校講堂記念館の入館者数が郷土資料館の入館者数の 4 割と、思っていた以上に多いと感じた。
- ・今は YouTube が普及しているので、市内の中学生等から募集をして魅力を伝えるための動画を作成してみるのも方法であると考える。
- ・授業での活用や協議会や研究会等で会場とすることで、郷土を知る機会に繋がると思う。
- ・教員との連携という観点から、初任者研修の一環で郷土資料館や彦成小学校講堂記念館を見学してもらえると良いと思う。

No. 2 9 放課後子ども教室推進事業

- ・職員の働きかけで 1 箇所増えたとのことだが、今後も学校や地域の方と密な調整をいただき、拡充をしていただきたい。
- ・平成 21 年の事業スタート時にコーディネーターとして関わらせていただいた。抽選で漏れてしまった児童がいるとのこと、改善に努めてもらいたい。
- ・市内全域で開催ができるのが望ましい。
- ・学校教育部が所管しているおもしろ遊学館との連携も面白いと思う。

No. 3 0 市民大学事業

- ・この事業については、総事業費が少ないことが気にかかっていたが、企業・大学が事業の趣旨に理解を示していただき、無料で協力いただいていることに対し大変有難いと思った。
- ・この事業は児童が様々な体験ができることが魅力である。こどもの内に色々な体験をさせてあげることが大切であることから、参加者増加に努めてもらいたい。
- ・この事業は市民（児童）の知的欲求を満たすという意味では、立正大学以外にも協力をいただける大学はあると思うので、頑張って貰いたい。

No. 3 5 青少年育成事業

- ・昨年度実施した事業については、どれも企画のセンスが素晴らしいと感じた。今後は、事業の実施回数が増やせるよう検討をしていただきたい。
- ・参加者の約半分がリピーターであるとのこと、この事業の成果が表れていると感じた。
- ・新型コロナウイルス感染症の関係もあったと思うが、活動指標と成果指標の目標値の設定は見直しをしても良いと思う。
- ・青少年ホームだよりや広報みさと、市ホームページ、チラシ等で周知をしているとのこと職員之苦労もあると思うが、この事業はとても良い事業であるため、今後も頑張ってほしい。

No. 4 5 親の学習推進事業

- ・コロナ禍で実施回数が減ったことが関係していると思うのだが、評価ランクが下がってしまったことはとても残念に思う。
- ・様々な方からの協力もあり、この事業が長く続いていることもあり、とても有難いと思っている。
- ・新型コロナウイルス感染症の関係もあったと思うが、活動指標の目標値の設定は見直しをしても良いと思う。
- ・実績報告について、昨年度は動画視聴のアクセス数も記載されていたので、今後も記載していただいた方が良いと思う。

No. 4 7 図書館運営事業

- ・子ども向けの事業が多い中で、高齢や向けの読書啓発事業を実施し、好評をいただいているとのことで嬉しく思うとともに、高齢者の生きがいにも繋がると思う。
- ・少ない予算の中で、これだけ多くの事業を低コスト実施していることに素晴らしさを覚える。まさに少ない金額が大きな効果を得られている良い事業である。
- ・この事業については、担当課のマンパワーにより成り立っている素晴らしい事業である。三郷市民が幸せになれる事業である。

No. 5 1 「日本一の読書のまち」推進事業

- ・少ない職員でこれだけ多くの事業を行っていることに、職員の熱意と努力を感じる。これからも頑張っていたきたい。
- ・この事業も低コストと職員の発想でもって成果をしっかりと生み出している事業である。ただし、低予算にこだわり過ぎると質が低下してしまう恐れもあるので、そうならないようにしていただきたい。
- ・三郷市の職員がインフルエンサーとなり事業を進めていくことも面白いと思う。

全体として

- ・教育委員会では94事業と各部・各課で多彩な事業を行っていただいております。これからも、事業発展のため頑張っていたきたい。
- ・今後は、学校教育の中で心の問題、価値の問題がとても重要になってくると思うので、難しい部分もあるが、頑張っていたきたい。
- ・様々な事業を行っていただいていることに対し、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。
- ・本日、委員の皆さんから出た意見等を検討して、新しい仕組みづくりを含め挑戦を続けていくことを強めていただければと思います。

Ⅶ 教育委員会事務の点検評価に関する懇話会委員名簿（敬称略）

氏 名	備 考
谷 口 清	学校教育関係知識経験者
逆 井 洋 一	学校教育関係知識経験者
伊地知 幸 子	社会教育関係知識経験者
福 田 誠 治	社会教育関係知識経験者

VIII まとめ

教育活動の取り組みは、事業の実施や予算の投入の結果が直ちに出るものばかりではなく、その成果を数値で示すことが難しい上に、多くの時間がかかるものです。

しかし一方では、適切な数値目標を掲げ、実証的に成果の検証を行い、課題の解決を図りながら事業を進めていかなければなりません。

今回の点検評価については、三郷市全体で実施している事務事業評価のうち、教育委員会所管の通常評価 53 事業、実績把握 41 事業の計 94 事業中、主要な 16 事業の事務事業評価について点検評価を行いました。

その結果、教育理念の実現のためには、社会の変化を見極め、時代の進展を踏まえた教育行政を推進する必要があると考えます。今後、各事業を展開していくうえでは、市民の皆様が夢に向かって挑戦することができる環境が整えられるよう、多様化する市民ニーズを的確に把握し、事業の必要性や優先度を十分に検証した上で、計画的に進めていかなければなりません。

また、限られた予算のなか、事務の効率化を図り、補助金等を利用した財源の確保も検討する必要があると考えます。

三郷市教育委員会では、三郷市教育行政の基本方針を「三郷の教育 四つの礎」(1 授業改善、2 日本一の読書のまち三郷の推進、3 家庭教育の充実、4 夢への挑戦)と定め、これまでの取り組みを更に発展させることに努めています。

引き続き、事務事業の点検評価を実施することで、三郷の教育が充実したものとなるように、事業の成果の適切な把握に努め、効果的な教育行政を推進してまいります。

最後に、貴重な御意見や御提言をいただきました懇話会委員の皆様に、心からお礼申し上げます。